

薬学部

薬学部の教育方針は、多様な薬学分野を基盤とした幅広い知識と技能を身につけ、薬学を含む種々の職能領域と相互連携しうる能力をもち、自ら活躍できる場を積極的に開拓できる可能性をもった人材（インタラクティブ YAKUGAKUJIN）を育成することです。したがって、徳島大学薬学部では既成概念にとらわれない柔軟な思考能力をもち、向学心に満ち、未踏分野の開拓精神に溢れた人材を求めています。入試では、アドミッション・ポリシーにあった人材を募集し、各学科の教育理念に応じたカリキュラムのもとで教育を行います。

■薬学科

薬学を基盤とし、薬剤師、薬学研究者・教育者として、薬物療法およびそれに資する科学の発展を通じた医療全体の向上に、情熱、倫理観、使命感をもって貢献できる人材を求めています。

●求める人物像

関心・意欲・態度

薬学にかかわる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり、自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人

探究力

自分が関心をもったことを深く掘り下げて探究し、その中から新たな問題・課題を発見できる人

表現力

自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に、相手の視点に立って表現できる人

知識・教養

薬学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき*基礎的かつ広範な知識や教養を有する人

思考力・判断力

将来、薬物療法の専門家として、修得した知識・教養・技能を基盤に、思考を深化、展開させ、科学的エビデンスに基づいて未知の課題に対して適切な解を判断できる素養を有する人

協働性

将来、薬物療法の専門家として、多職種の人と協働でき、活躍できる素養を有する人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

理 科—理系科目については、薬学を学ぶ上での基礎的な知識として、化学に加え、物理と生物の両科目の履修を希望

数 学—理系数学についての基本的な知識・技能と論理的思考法

英語、国語—将来、薬学部で学んだ知識や成果を論理的に表現し、さらにそれらを世界に発信する必要がある。したがって、英語・国語の基礎的な読解力、表現力、発信力、コミュニケーション能力を身につけておく。

そ の 他—将来、薬剤師、薬学研究者・教育者として活躍するためには、上記以外の科目もおろそかにせず、また部活やボランティア等、様々な活動に積極的に取り組むことで、幅広い視野と高い倫理観、豊かな人間性を育ててもらいたい。

●入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、これらに加え「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を評価します。

A O入試（大学入試センター試験を課す）＜インタラクティブ YAKUGAKUJIN・「操薬*¹」リーダー育成型＞

大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、これらに加え、高等学校等段階における経験、関心等を特に重視して「関心・意欲・態度」「探究力」「表現力」「協働性」を合わせて評価し、薬学研究、医療が抱える多様な課題に対する広い興味と強い意欲をもつ人を総合的に選抜します。なお、薬学科A O入試では、インタラクティブ YAKUGAKUJIN の人材育成方針に基づき、薬学科で学ぶために必要不可欠な資質とリーダー性をより深く評価することを目的としています。

*¹ 操薬とは、薬を効果的にあやつる（操る）こと、すなわち、効かせたい場所に、安全に適切な量を運び届け、薬効を発揮させることを意味します。

●入学者選抜方法における選抜内容

入学者選抜方法	該当選抜区分	選 抜 内 容
論述レポート	A O	薬学関連分野の提示資料（講義を行う場合あり）などに関して、論述形式のレポートを作成する。個人面接時の資料とする。 ※薬学関連分野の提示資料は英語の場合がある（講義を行う場合は日本語による講義）。提示資料の他、アドミッション・ポリシーに基づいて評価することを目的とした設問を行うことがある。
個人面接	A O	複数の面接担当者により個人面接を行う。アドミッション・ポリシーに基づいて個人面接を行い、論述レポートや提出書類の内容を確認する。
集団面接	一般（前期）	複数の面接担当者により集団面接を行う。なお、面接においてすべての面接担当者が不適格と判定した場合は、大学入試センター試験及び個別学力検査等の成績にかかわらず不合格とする。
志望理由書	A O	当学科への志望理由について、これまでの学生生活等の状況を踏まえて、800字から1,000字で簡潔に作成して提出する。
活動報告書	A O	中学校卒業後の「意欲的に取り組んだ活動（部活動、生徒会活動、プロジェクト活動、ボランティア活動、海外留学などの学校内外で行った活動）」を評価し、「資格・検定等」の成績を参考にする。 ※提出書類等の詳細は、「『活動報告書』作成要領」を135～137ページに掲載しているので、必ず確認すること。
調査書* ²	A O	高等学校での生活状況（特別活動・指導上の参考となる諸事項等）を重点的に評価し、学習の記録を参考とする。なお、資格・検定試験の成績等のほか、プロジェクト活動やボランティア活動の実績、海外留学等の多様な経験がある場合は、参考とするので具体的に記入すること。

●入学者選抜方法における重点評価項目〔入学者選抜方法と求める人物像との関係性〕

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	探究力	表現力	知識・教養	思考力・判断力	協働性
(センター試験)	一般（前期） A O				○	○	
個別学力検査 < 教科 >	一般（前期）			○	○	○	
論述レポート	A O		○	○	○	○	
個人面接	A O	○	○	○			○
集団面接	一般（前期）	○		○			○
志望理由書	A O	○		○			
活動報告書	A O	○					
調査書* ²	A O	○					○

*² 一般入試（前期）においては調査書を参考とする。